【熊本国税局長賞】

楽しく学ぶを支える税

西之表市立種子島中学校
三年　赤木　梓音

「何のために勉強するのか。」

口に出すことはなくても、よく考えてしまう。私にとって勉強は楽しいものではなかった。なぜ義務教育というものが存在し、「税金」がどのように関わっているのか、この夏深く考えさせられた。

中学三年生、義務教育最後の一年であるとともに、卒業後の進路について考えなければならない大切な時期だ。私は県内でもレベルの高い普通科の学校を希望している。先述の通り、私にとって勉強は楽しいものではない。しかし、もっと「学びたい」と思うきっかけがあった。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

九年間、毎日手にした教科書の裏表紙には必ずこの言葉が記されていた。教科書だけでなく、校舎・机・いす・タブレットなど、学校にあるほとんどの物は税金によって整えられている。なぜ、こんなに多額の税金が私たちの「学び」のために使われているのか。この答えこそが、教科書に記された言葉だと思う。学校へ行き、友達と会い、勉強する。私たちにとってはあたりまえのことだが、実はこれはとても幸せなことであって、あたりまえではない。さまざまな事情で世界には「学びたくても学べない」子どもが大勢いる。そのような子どもたちにとって貴重な「学び」を私たちが「楽しくないから」という理由で適当に扱ってしまっては良くない。税金によって整えられた環境を最大限に活用し、感謝の気持ちを持って学ぶ。自分の興味・関心を追及し、未来の社会に生かそうとする。学びに楽しさを見い出し、たくさんの人に共有する。さまざまな形で学び、将来は納税者として、日本だけでなく全ての国で平等に「学びの場」ができれば良いと思う。

私は今後、残りわずかの義務教育で、税金のおかげで学べるありがたみをかみしめ、「楽しい学び」を通して、友達と切磋琢磨し合いながら未来の日本を担う立派な大人、納税者へと成長していきたい。全ての学びは無駄にならない。まだまだ続く学生生活の中でたくさんの知識をつけ、大人の期待や希望に応えられるような人になりたい。税金は回る。税金で成長し、税金で未来の担い手を育てる。この輪を広げ、明るい社会を自分たちの手で作っていきたい。

たくさんの「学び」が詰まったかばんは今日もずっしりと重い。お金の重み。税金の重み。そして、全ての人への感謝の重み。学ばせてくれて、ありがとう。この幸せな重みが感じられるのもあとわずか。空はすっきりと晴れ、学びに向かう足取りは軽かった。